

こんなにも愛ひとすじに生きられるものなのか……

愛にかけた女の情念のひたむきな激しさを名匠トリュフォーが鮮烈に描きつくす不朽のロマン!



# アデルの恋の物語

\*イザベル・アジャニー\*ブルース・ロビンソン\*シルビア・マリオ\*フランソワ・トリュフォー  
\*フランソワ・トリュフォー監督作品\*フランス・シネマ大賞受賞\* (カラー作品)  
製作脚本フランソワ・トリュフォー 原作フランス・V・ギール(アデル・ユエーの日記)  
音楽モーリス・ジョーパール 撮影ネストール・アルマンドロス 編集ユナイテッド・アーティスト

L'HISTOIRE  
D'ADELE H.

United Artists  
A Paramount Company



## ■スタッフ■

製作・監督……フランソワ・トリュフォー  
脚本……フランソワ・トリュフォー  
" ……ジャン・グリュオー  
" ……スザンヌ・シフマン  
撮影……ネストール・アルマンドロス  
音楽……モーリス・ジョーベール

## ■キャスト■

アデル……イザベル・アジャーニ  
ピンソン中尉……ブルース・ロビンソン  
サンダース夫人……シルビア・マリオ  
ウィスラー氏……ジョゼフ・ブラッチリー  
中尉の部下……カール・ハスウェル

**United Artists** ユナイテッド映画  
A Transamerica Company



ISABELLE ADJANI  
dans un film de  
FRANÇOIS TRUFFAUT

# L'HISTOIRE D'ADELE H.

〈カラー作品〉

# アデルの恋の物語

「これは恋と冒険の物語。ひたすら愛し、愛されようとし、限りなく理想を追い求めた若い女の情念の恋物語である」

——フランセス・ベルノール・ギール

●こんなにも美しくこんなにも激しい愛が……

1863年。英領カナダ・ハリファックスに若い女が単身上陸した。ひとまず下宿先に身を寄せた女は、翌日早速公証人を訪ね、ある男の搜索を依頼する。アルバート・ピンソン。英軍騎兵中尉。男は女が思っただけで初恋の相手だった。その存在を確認した女は、次にあの手この手で男への接近を試みる。

幾度も幾度も男のポケットへ投げ文をし、またある時は男装の麗人として、男の情事の場にも踏み込んだ。狂気一歩手前ともいえる奇矯な振舞いのわけは、一途に男への愛の証し。しかしその行為とは裏腹に、男の気持は増々女から離れていった……。

いまから百余年前、唯一度の恋にすべてを賭け、不屈の信念と決断力で地の果てまでも男を追い駆けたその女の名は——アデル。フランス近世の大文豪ビクトル・ユゴー（レ・ミゼラブル）の次女である——。

●可憐ノ思わず固唾をのむ新人アジャーニの魅力

ヒロイン、アデルを演じるイザベル・アジャーニは、いま映画界に旋風を巻き起している話題の大型新人女優。すでにこの作品の演技で、ニューヨーク批評家協会賞、全米映画批評家協会賞、ナショナル・ボード・レビュー誌と3つの演技賞を独占、残るアカデミー賞も主演賞候

補にノミネートされているという彼女の横顔は——。

'55年パリ生まれ、今年20才。ハイスクール時代から女優を目指し、14才でスクリーン・デビュー。その後、舞台・TVも経験し、17才でコメディ・フランセーズの最年少メンバーになり、19才で出演した『平手打ち』の演技が批評家の絶讃を浴びている。

米タイム誌がコロアのモデルのような、とその愛らしい面立ちを評した彼女を、本国フランス映画界では、B・B、ジャンヌ・モロー以来の大物と謳って、その期待と昂奮を隠そうとはしない。

●巨匠トリュフォー満々の傑作ロマン!

製作・監督・脚本はフランソワ・トリュフォー。「野性の少年」「恋のエチュード」「アメリカの夜」と落ちのない最近の作品経歴にさらに厚みとハクを加えるのが「アデル……」の仕事振りだ。

脚本にはスザンヌ・シフマンとジャン・グリュオーも協力。ネストール・アルマンドロス（「野性の少年」）の絵画調色彩、モーリス・ジョーベールの音楽も瑞々しい効果を上げている。またピンソン役のブルース・ロビンソン（「ロミオとジュリエット」）の白面の貴公子ぶりも話題を呼びそう。

フィクションよりもさらに伝奇的——しかしれっきとした史実に材をとって、恋に焦がれた女の数奇な運命を描いた一大ロマン。20世紀後半、ときめきの愛に揺れる貴女は、アデルの物語をどう見るだろうか……。

## 次回愛のロードショー

特別鑑賞券 ¥900  
（一般1200円のところ）発売中!

有楽町 ニュー東宝  
日劇前 シネマ2 (571)  
1947